

共催：国際言語文化学部国際日本文化学科  
現代人間学部生活環境学科

京都ノートルダム女子大学大学院

人間文化研究科  
人間文化専攻

『文化のポリフォニー』  
出版記念  
第二弾

# 文化の航跡研究会

## “食”をめぐる言葉

1/24 (金)

16:40-18:00

開場16:30

会場：ソフィア館5F  
S502教室

講演者

蜂矢 真弓  
朱 鳳

天理大学  
人文学部国文学国語学科 准教授  
京都ノートルダム女子大学大学院  
人間文化研究科 教授

ND

問い合わせ先：教育支援部学事課 075-706-3661  
gakuji@notredame.ac.jp

## 講演概要

### 講演1 「形態・意味が重複する日本語」

サカナは「サカナ」であり、サカは酒、ナは菜（主食に対する副食物）を意味する。つまり、サカナは「酒のつまみ」の意味であり、転じてfishを意味するようになった。しかし、室町時代末期になるとサカナがfish以外の食物も表すようになり、江戸時代になると生物としてのfishをも表すようになった結果、ウチ（魚）は衰退した。一方で、時代が下ると「酒のつまみ」の意味を表すサケノサカナ（酒の肴）が発生する。これは、本来は「酒の酒の菜」という意味であり、サカナのサカが酒の意味であることが認識されなくなったためである。  
(蜂矢 真弓)

### 講演2 「洋食文化の受容と漢字翻訳語の役割」

本発表は明治期に日本で翻訳された初期西洋料理本『西洋料理通』(1872)、『月刊食道楽』(1905)を第一資料に、同時代に日本で出版された英華字典、西洋文化関連書物も比較資料として使いつつ、漢字翻訳語という視点から、日本語の中の洋食用語がどのように創り出されたかを検討することによって、東西文化の融合における漢字の役割について考えていく。

(朱 鳳)

## 講演者紹介

蜂矢 真弓（はちや まゆみ）天理大学人文学部国文学国語学科・准教授

京都ノートルダム女子大学国際言語文化学部国際日本文化学科・非常勤講師

略歴：大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了〔博士(文学)〕

大阪大学大学院文学研究科助教、京都ノートルダム女子大学国際言語文化学部国際日本文化学科講師を経て、2024年より現職。

研究テーマ・関心領域：被覆形・露出形、一音節名詞の多音節化

主要業績：著書「食物を表す日本語 生物を表す日本語」『文化のポリフォニー』（共著 かもがわ出版 2023年）  
「一音節名詞ア・イ・ウ・エ・オ」『上代学論叢』（共著 和泉書院 2019年）

朱 鳳（しゅ ほう）京都ノートルダム女子大学大学院人間文化研究科・教授

略歴：京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程満期退学〔博士(人間・環境学)〕

京都ノートルダム女子大学人間文化学科講師を経て、2015年より現職

研究テーマ・関心領域：日中近代語彙交流史

主要業績：著書『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』（単著 白帝社 2009年）

論文「『致富新書』の翻訳考—原書との比較を中心に—」『日中語彙研究』（2023年）

「何礼之とその翻訳書について—『政治略原』の漢字翻訳語を中心に—」『関西大学東西学術研究紀要』（2017年）



Kyoto Notre Dame University

1 Minami-Nonogamicho, Shimogamo, Sakyo-ku, Kyoto, 606-0847 Japan

京都ノートルダム女子大学

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地